



発行者

北海道へき地・複式教育研究連盟
www.hamanasu.com./dohekire

委員長 河田 茂

編集責任者 管澤 秀信

印刷所 広小路印刷株式会社

滝川市一の坂町西3丁目1番31号 TEL0125-22-4325

題字 書家 濱谷 彩鶴 (はまや さいかく) 氏



第62回

北海道へき地複式教育研究大会

日高大会特集号

日高の大地に生きる

若駒のような子らに

豊かな心と確かな学びを！

さらなる発展を期して

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長 河田 茂



「日高の大地に生きる
 若駒のような子らに 豊かな
 心と確かな学びを！」の
 大会スローガンのもと、9
 月26日・27日の2日間、第
 62回北海道へき地複式教育
 研究大会日高大会が5町7
 会場で開催されました。台

風の接近で天候が心配されましたが、爽やかな秋
 晴れのもとに、全道各地より多くの皆様に参加し
 ていただき、盛会裏に終えることができました。
 本大会にかかわっていただきました全ての皆様に
 厚くお礼申し上げます。

日高大会開催は平成11年度以来であり、当時は
 分科会場が9町12会場15校で開催され、大きな成
 果を残した大会でありました。現在は、へき地・
 複式校が激減し、日高管内の11複式校中7校での
 開催となり、運営や研究体制等も厳しい状況では
 ありましたが、昭和40年代に「自ら学ぶ教育」の
 理念に基づいた「ガイド学習」を発信した日高地
 区の確かな実践の歩みが、各分科会場校に实实在
 りと受け継がれていました。

全道的に複式校の統廃合が進み市町村内や管内
 での実践交流が難しくなっている中、本大会

の果たす役割は年々重要になってきています。特
 に分科会の充実が最も求められることですが、各
 分科会場校では、へき地・小規模・複式形態の長
 所を最大限に引き出した教育実践が展開されてい
 ました。これも、各校の校長先生をはじめ教職員
 の情熱と使命感、それに心を揺さぶられ意欲的に
 学ぶ児童、学校を地域の拠点として愛する保護者
 や地域住民、そして開催に向けて準備をいただい
 た日高大会実行委員会と関係者の皆様のご尽力の
 のおかげです。

次年度の本大会開催地区であります十勝プレ大
 会も10月に終えました。道へき・複連としまして
 は、第8次長期5か年研究推進計画の最終年次と
 なったこの日高大会が大きな節目の大会になっ
 ていると考えています。この研究成果をしっかりとま
 とめ、より充実した大会をめざして新たな試みで
 スタートする第9次長期5か年研究推進計画の初年
 次となる十勝地区に引き継いでまいります。来年
 の十勝大会の成功に向けたご理解とご協力につ
 きましてもよろしくお願ひいたします。

終わりになりますが、日高大会の開催に際しま
 して北海道教育委員会をはじめ関係諸団体のご指
 導ご支援を頂きましたことに心より感謝申し上げ
 ます。ありがとうございました。

第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会を終えて



北海道教育庁日高教育局
局長 北村 善春



第62回全道へき地複式教育
研究大会日高大会
実行委員長 久住 勉
(日高町立門別小学校長)

全道各地から、多数の皆様をお迎えし、日高管内5町7校を会場に第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会が盛大に開催され、大きな成果を上げて終えられましたことを嬉しく思っております。

北海道へき地・複式教育研究連盟におかれましては、長年にわたり、小規模、複式の特性を生かした日々の教育実践の交流や研究を積み重ね、本道のへき地複式教育の充実・発展に大きく貢献されてきておりますことに敬意を表します。

さて、本研究大会を迎えるに当たり、会場校においては、全国学力・学習状況調査や学校評価等の結果を分析し、改めて学校課題を明確にするとともに、へき地・複式教育の特性を生かした学習指導の在り方について、組織的・計画的に校内研究を進められ、子ども一人一人に確かな学力の向上を図る授業が公開されたと伺っております。

また、日高へき地複式教育研究会においては、昨年度開催されたプレ大会における各会場校の成果と課題を整理・分析し、管内としての共通課題を設定するとともに、各学校の実態に応じて取り組む選択課題を明らかにするなど、各会場校の取組を組織としてバックアップされたことは、本研究大会成功の大きな原動力となりました。

本研究大会における成果を全道各地のへき地・複式校に波及し、へき地・複式教育の一層の充実・発展につなげていただくよう、お願い致します。

結びに、会場校7校の校長先生並びに教職員の皆様をはじめ、お力添えをいただきました関係の皆様深くお礼を申し上げますとともに、北海道へき地・複式教育研究連盟の益々の御発展と会員の皆様のさらなる御活躍を祈念申し上げ、大会終了の言葉といたします。

雄大な日高山脈から流れる谷川のせせらぎや広々とした太平洋の潮の香りに心を和ませながら、北風に負けずに学ぶ日高の子どもらとともに、第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会を全道各地から多くの皆様をお迎えし開催できましたこと大変嬉しく思います。

複式学級を有する学校が激減し11校となる中、5町7会場場で授業公開と研究協議を行うことができましたのは、会場校の校長先生はじめ、教職員の皆さまの「日高の子らのために」という熱い思いと努力の結晶であります。

記念講演では、北海道医療大学教授向谷地生良氏と浦河べてるの皆さんから、「“弱さ”の持つ力と可能性を育む教育」と題した貴重なお話を聴くことができました。へき地複式教育の原点である「3特性を活かすこと」は、へき地の学校の持つ特性を強みに変えることであると再認識したところです。

分科会協議でご指導を受けた成果と課題を日高管内として整理し、更に研究を深めていきたいと考えます。特に「一人学びの充実のための課題の明確化と課題解決の見通しをもたせること」「自信をもって学習に取り組むために学び方の定着を図ること」は、確かな学力の定着に向け必要不可欠であるといえます。会としての研究を深めるとともに管内に向け情報発信をする必要があります。

プレ大会、本大会の開催に関わり、北海道教育庁日高教育局、北海道へき地・複式教育研究連盟、各町教育委員会等、教育関係機関の皆様、財政面で支えていただきました日高町村会に衷心より感謝申し上げます。大会は終わりましたが、授業改善に向けた営みは続いています。「終わりは、始まり」です。

基 調 報 告

第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会
研究部長 小 泉 卓 真



【はじめに】

日高管内におけるへき地複式教育研究は、昭和9年浦河町後鞆尋常小学校（後の白泉小学校）を会場とした全道単級複式教育研究大会で提唱された「間接指導の中にある自学自習の態度をより高める学習方法は何か」という課題の検証によってその第一歩が踏み出された。以来、今日に至るまで、管内のへき地・複式・小規模校において、その特性や条件を生かした創意あふれる研究主題を設定し、地域の児童生徒の実態に即した特色ある教育課程の編成と実践研究が脈々と受け継がれている。

日高における研究は、日高へき地複式教育研究会の研究計画に基づき、管内的な実践研究の交流・推進が図られてきた。しかし、平成22年、日高へき地複式教育研究会は大きな転換期を迎えることになる。日高管内教育研究団体連絡協議会の解散に伴い、本研究会はその加盟団体としての役割を3月29日の解散総会をもって一時終了する。しかし、昭和9年から脈々と積み上げてきた日高のへき地複式教育研究を存続させるべく本研究会の役割を再確認し、同年5月31日の設立総会をもって新たな会を発足させ、研究の第一歩を踏み出すことになる。

【研究主題】

「主体的・創造的に学び、豊かな心で
たくましくふるさとを拓く子供の育成」

【大会スローガン】

「日高の大地に生きる 若駒のような子らに
豊かな心と確かな学びを！」

【日高大会の意義と位置付け】

第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会は、「主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましくふるさとを拓く子供の育成」を研究主題に、実践課題の究明にあたってきた。

研究推進は、大会スローガン「日高の大地に生きる 若駒のような子らに 豊かな心と確かな学びを！」の下、次の5点の大会方針を立てた。①

第8次長計の最終年度として、研究の進化・充実を目指す。②研修活動や共同研究の実践的な進め方についての研究を深める。③指導方法や指導体制、認め励ます指導過程の工夫・改善を目指す。④体験的な活動を取り入れた道徳的実践力の育成を目指す。⑤間接学習の充実、学び合い高め合う指導過程の工夫・改善を目指す。

北海道へき地・複式教育研究連盟における研究面でいえば、第1分野「学校・学級経営の深化・充実」については、各学校がおかれた条件・状況を踏まえ、家庭・地域・近隣校との密接な連携を図った教育活動を学校・学級経営に積極的に取り入れることで第8次長期5か年研究推進計画との関連を図る。第2分野の「学習指導の深化・充実」については、各校の研究内容が「第6・7課題」に集中していることから、研究の中心を「学習指導分野」の「第6・7課題」に据え、プレ大会を通して明らかになった日高地区としての成果と課題を踏まえ、本研究大会に向けての深化・充実を図る。

【研究の成果と課題】

《成果》

- 日高地区としての研究の深化・充実を図るため、全ての学校が共有化する課題（共通課題…課題設定・解決の見通し、交流の場・話し合い）と各学校の研究内容により実践する課題（選択課題…指導過程、間接学習、学習リーダー、児童の思考を助ける教具の活用）を設定し、組織的に取り組むことができた。
- 複式学級を有する学校が減少する中、分科会会場校を協力校が運営面で支える体制を確立することができた。

《課題》

- 指導の重点を明確にし、直接指導と間接指導、同時間接指導の時間配分を考慮する等の工夫改善を図る。
- 学習意欲を高める課題設定と課題解決の見通しの持たせ方について、更に研究を深める。

【おわりに】

日高大会開催にあたり、日高教育局、道へき・複連、日高町村会、各町教育委員会、各会場校の児童・保護者の皆さまなどのご支援とご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

分 科 会 報 告

第 1 分科会 えりも町立えりも岬小学校

1 研究主題

子どもが学ぶ喜びを実感できる算数の授業の在り方～考える楽しさを味わう“一人学び”と深め合う喜びを味わう“集団学び”の工夫改善～

2 研究仮説と内容

仮説 1 …思考を確立し自己を表現できる指導計画の立案と場の設定をすることで、子ども達は課題意識をもち主体的に学ぶことができるであろう

指導計画作成する上で児童の実態を考慮し数値や問題文の用い方などを工夫することにより児童が連続した学びを実感し、課題意識を高められる。

仮説 2 …互いの解決方法を認め合い高め合う活動を充実させることで、算数のよさやおもしろさを共に追求する喜びを実感できるであろう

自力解決中で見出されたそれぞれの解決方法の意味やよさを具体的にとらえ高め合える「話し合いの観点」を設定するなど、児童同士が活発に話し合える環境づくり。

仮説 3 …授業における基礎的な内容の確認や、家庭学習等と連動させた繰り返し学習を位置づけることで、子ども自身が基礎的な内容の定着を実感し、算数を学ぶ喜びを積み重ねるだろう

基礎的な内容は「算数用語・数直線などの用い方」と「知識・理解、技能の向上」の2つと押さえている。技能等の向上にあたっては「授業でのまとめ-家庭学習-朝学習」と連動させることで児童が学ぶ喜びや充実感を味わえるようにしている。

3 公開授業

○1年生『3つのかずのたしざん、ひきざん』

数の処理への課題意識を高めるために、本時まで用いる数字や文章表現を工夫するなど、学びの連続性を体感できる指導計画とした。

○2年生『かけ算』

かけ算の意味の確実な理解と操作性の向上を図る指導計画の作成と課題設定を行った。

○5年生『単位量あたりの大きさ』6年生『速さ』

両学年とも数直線や図などをもとに、立式の意味を具体的にとらえられる指導計画を作成した。

4 研究協議

全学年で課題意識を高める指導計画の位置付けがされていたことや、話し合いの観点にそって児童同士の活発な意見交流がされていた。また、集団解決のねらいやイメージなどを教師自身がしっかりと理解することが、今後の集団解決の活性化につながる上で重要であるなど貴重な意見も出された。また、児童の活躍の場が保障され、それに対する教師と級友からのプラスの評価があることが児童の課題意識の向上につながっている。複式形態への対応として児童の課題意識を高める授業づくりが必要である。



第 2 分科会 えりも町立笛舞小学校

1 研究主題

「自ら学び、伝え合い、自分の考えを深めていく子ども」を目指して～算数指導の工夫を通して～

2 研究仮説と内容

仮説 1 …知的好奇心を喚起させる学習課題を設定し、課題解決の方法を定着させることにより、児童一人一人が課題とじっくり向き合い、自ら学ぶことができるであろう

●課題解決の工夫や解決の見通しの持たせ方

●課題解決の方法

仮説 2 …子ども達の考えをもとに、算数的活動を取り入れ、表現する場を位置付けた授業の展開により、自分の思いを適切に表現し、考えを深めることができるであろう

●『書く活動』を通じた場の工夫

●『書く活動』を生かした交流し合う場の工夫

3 公開授業

○3年生『重さ』 4年生『面積』

3年生は、ボールの重さの量り方を考える授業を行った。全体から入れ物の重さを引くことで、求めたい重さを求めるという学習内容であった。

4年生は、複雑な形の面積の求め方を考える授業を行った。いくつかの長方形に分けて、たしたり引いたりして、求めたい面積を求めるという学習内容であった。

○5年生『単位量あたりの大きさ』

6年生『角柱と円柱の体積』

5年生は、単位量あたりの大きさを比べて、イモのとれ具合の調べ方を考える授業を行った。線分図や式を使って、 1m^2 当たりや 1kg 当たりの大きさをもとに比べるという学習内容であった。

6年生は、三角柱の体積の求め方を考える授業を行った。『底面積×高さ』や『直方体の体積÷2』の方法で求めるという学習内容であった。

4 研究協議

「既習事項の活用によって課題解決の見通しを持たせてから間接指導に入っていた」「課題設定の場面で具体物の提示は有効だった」等の意見があった。一方で、「見通しをどこまで持たせるべきか、結果の見通しか、過程の見通し（解決方法）なのかを明確に伝えた方がよい」という意見もあった。「ヒントカードやヒントボックスが有効であった」「意見交流ができていた」等の意見もあった。一方で、「ノートとホワイトボードの両方に書くのは大変ではないか」「学習リーダーの活用や小集団の工夫により、更に話し合いが深まるのではないか」等の意見もあった。今後の課題は「学年の発達段階を踏まえた学習リーダーづくり」「様々な学級形態に対応できる複式の授業づくり」「ねらいと整合した適用問題の内容」である。



第3分科会 浦河町立野深小学校

1 研究主題

自ら学び共に高め合う子どもの育成～「読む力」「伝え合う力」を高め、考えを広げられる授業を通して～

2 研究仮説と内容

「学習することが楽しいと実感できる子」「たがいに学ぶことの喜びを共有し合える子」をめざして国語科を中心に研究を進めてきた。

仮説1 …「間接指導において、課題解決への見通しをもたせる工夫をすることにより、児童は主体的に学ぶことができるであろう

●明確な課題設定の工夫

●個に応じた手立ての工夫

最終的に何が分かり、何ができればよいのか？その目的や方法は何なのかという「課題」を明確に示すことにより、児童は見通しをもつことができると考える。

仮説2 …考えを交流する場面において、相手を意識して活動させることにより、児童は自分の考えを広げたり深めたりすることができるであろう

語や文を根拠にした自分の解釈を「考え」ととらえ、発達段階に応じて「考えの交流」場面を設定する。「相手を意識する」ことで、一方通行ではなく双方向で発信しあうことが可能になり、さらに児童の学びを広げたり深めたりできると考える。

3 公開授業

○1年生『はたらくじどう車』

2年生『さげが大きくなるまで』

教科書の文だけでなくワークシートやペーパーサートを使い説明文の読み取りを深めていく授業を展開した。

○3・4年生 道徳『たまちゃん大好き』

DVDや教師の読み聞かせにより、主人公のまる子ちゃんを通して、友達を大切に、仲良く生活していこうとする心情を育てる授業を展開した。

○5年生『大造じいさんとがん』

6年生『川とノリオ』

教科書を読み深めて児童それぞれが自分の考えを黒板に書き、物語文の中心人物の心情の変化を捉えていく授業を展開した。

4 研究協議

どの授業も学習規律が確立されていること、ノー

トの書き方や間接指導での学習リーダーの役割などがしっかり定着していること、児童の視点にあった掲示物など学校全体で共通認識を持った活動が進められていることなどの評価をいただいた。同時間接指導時の教師の関わり・発問の吟味など、課題の交流が図られた。また、間接指導時の主体的学び・見通しを持たせ方・課題把握への工夫などが大切である。



第 4 分科会 新ひだか町立東静内小学校

1 研究主題

学び合う子の育成～算数科の授業における教材・教具の工夫を通して～

2 研究仮説と内容

コミュニケーション活動を通じて、子どもの「気づき」「発見」「共感」「受容」「理解の深まり」を生じる協同的な学びを『学び合い』と押さえて研究している。

仮説 …個々が考える場を保障し、学び合いを生むためのアプローチを工夫することで、一人ひとりの学びを深める事ができるだろう

◎学習形態の工夫 ◎発問の工夫

◎教材教具の工夫

教材・教具では、「算数科課題解決のための教材・教具(具体物等で思考を促す物)」と「学び合いを促すための教材・教具(学び合いの補助となる物)」とに分けて考えた。目指す子ども像は『自分の考えを持ち、その考えを大切に示しあえる子ども』『友達との関わりからの中から『気づき・深まり』をうみだせる子ども』である。

3 公開授業

○3年生『円と球』

イメージ化しやすい生活の場面から、思考を

促し考えを明確にする発問を工夫し、見通しを持たせ解決させた。また、一人学びから班や全体での学び合いを深める教材・教具の活用を図った。

○4年生『面積』・

5年生『四角形や三角形の面積』

教具・学習シートを活用することによって思考を助け、自力解決への見通しを持たせることができた。また、学習リーダーにより学習を進めたことで間接指導が効果的で、学び合いによる深化が図れた。

○6年生『角柱と円柱の体積』

具体物の提示で学習意欲の向上、思考促進すると同時に、学習シートで自分の考えを整理して発表する。学習リーダーが司会し、学び合いを進め、思考の広がりを促し、学習の深まりが見られた。

4 研究協議

「教材は楽しく、子どもの学習意欲が出ていた。」「自力解決の見通しを持たせる教材であった」との意見が出された。また、授業の中で使われた『たち合わせ』という言葉について問われ、言葉の理解とやり方で、子どもの理解が増進させられる。学校で言葉を統一して使うことで、授業をふくらませることができるのではないかとアドバイスも出された。一人学び・グループ・全体という形態は定着している。支援が必要な児童への指導のタイミングが難しいと思われたとの意見が出された。黒板の前に出て話し合っている子どもの表情が良く、教室空間をダイナミックに使い、間接指導が行われて良かった。また、学年の発達段階の学び合いが見られた。算数科の基礎基本を押さえ、自分の考えを大切に自力解決が図られていた。



第5分科会 平取町立紫雲古津小学校

1 研究主題

「自ら考えをくみため、わかりやすくつたえる子の育成」～算数科の思考場面・交流場面を通して～

2 研究仮説と内容

仮説1 …学習課題に対する具体的なイメージを描き、解決までの見通しを持つことにより、子ども達は自分の考えをくみためやすくなるだろう

- ◎課題を把握する ◎見通しを持つ
- ◎既習事項を使う ◎順序立てて考える

仮説2 …課題に関わる表現の仕方・筋道を立てた説明の仕方を身につけることにより、子ども達は自分の考えたことをわかりやすくつたえられるようになるだろう

- ◎考えたことを、順を追って説明する
- ◎筋道の通った話し方をする

仮説2に関わる児童の実態を捉えるためにアンケートを実施し、教師と児童の意識のずれを埋めていくためにさらなる指導過程の工夫を行っていった。

3 公開授業

○1年生『10より大きい数』

既習事項である「10まとまりといくつ」という数え方を使いながら、視覚に訴える授業展開を行った。

○4年生『面積』

既習事項である「正方形」「長方形」の面積の求め方から、「変わった形の図形の面積」を求めていった。各自が自分の考えをまとめ、「わかりやすくつたえる」という仮説2に視点を当てた授業構成をとった。

○5年生『分数の大きさとたし算、ひき算』



課題を把握するために、実物を使っての導入を行った。既習事項の分母が同じ分数同士のたし算との違いを考えることを通して、異分母分数同士のたし算の方法を展開していった。

4 研究協議

参加者からは、「既習事項を生かした課題把握」「理解の進まない子への支援の手立て」「自分の考えをわかりやすくつたえることの大事さ」など多くの意見が出された。「算数的用語をしっかり押さえた指導であった」「発表することを通して算数を好きになる子が増えていく可能性が見える」「継続的・組織的な取組の効果が現れていた」など、へき地複式教育の要素がしっかりと伝わってくる研究内容であった。

第6分科会 平取町立二風谷小学校

1 研究主題

「自ら考え、見かたを広げ、学びあう子どもの育成」～説明文の読み方指導を通して～

2 研究仮説と内容

仮説1 …指導方法を工夫することによって、言語力をつけることができる

- ◎動作化・補助教材 ◎紙黒板
- ◎ノートづくり

仮説2 …自分の考えをもたせることによって、友だちと学びあうことができる

- ◎自分の意見をもつ場を保障し、友だちと意見を交わしあう場の設定
- ◎自己評価・相互評価の設定

仮説3 …論理的な文章を、各教科、総合的な学習の時間等で活用させることによって、伝える力をつけることができる

- ◎説明的な文章で習得した論理的な説明の方法を、国語科の発展、他教科、総合的な学習の時間、特別活動などにおいて設定する。
- ◎互いの立場や考えを尊重しながら、言葉で伝え合う力を高めていった。

3 公開授業

○読書集会『広げよう 本の世界』

これまで国語科で学習したことをもとに、自分たちで聞き手を意識した発表になるようテーマを設定して取り組んだ。1・2年生は「むかしばなし」、3・4年生は「ブックトーク」、5・6年生は「本の紹介～国語元年」の発表を行った。発達段階にあわせた目標も設定し、相手に

伝える工夫が盛り込まれた発表となった。

○3・4年生『くらしと絵文字』

紙黒板での振り返りや付け加えをしながら、絵文字の3つの特徴をおさえ、新しい絵文字をグループごとにその特徴に当てはめる活動を展開し、段落のつながりを考えることができた。

○5・6年生『言葉と事実』

読み取ったことをもとに、自分たちの町を紹介しようという課題を設定し、木彫り、トマト、アットゥシ織りのグループに分かれて、印象に残る言葉を選定し紹介文を書き発表した。

4 研究協議

紙黒板の利用に関する意見、聞き手を意識した読書集会の取組に関する意見、グループでの話し合いに関する意見などが出された。学校の読書環境が整い、本の面白さ・奥深さを子ども達に伝えていること、集会の目当てを意識化・共有化・行動化していること、単元を通してどのような言語活動を仕組み、国語科で学んだ力をどのように自分たちの活動に生かすのかまで、研究が発展していると評価された。



第7分科会 日高町立里平小学校

1 研究主題

課題をとらえ、主体的に学習に取り組む子どもを目指して～極少数数学級における効果的な算数科の学習指導のあり方～

2 研究仮説と内容

児童数6名の極小規模校であり、平成9年度から山村留学制度を実施している。児童は、算数的な考え方や文章からの立式や図式化・イメージ化が弱いところがあった。

仮説1 …学習の流れを子どもに意識させ、指導内容・指導方法を工夫することで、課題をとらえ

主体的な学習になるであろう

「学習過程の4段階を意識して学習に取り組むようになってきた」「間接指導時に主体的な学習ができるようになってきた」「既習の用語を使用し説明が出来るようになってきた」

仮説2 …間接指導のあり方を工夫することで、子どもが主体的に学習に取り組むことができるであろう

視聴覚機器、特にiPadの活用により学習意欲の継続と間接学習の効果が見られた」「テープ図・線分図を描けるようになってきた」

3 公開授業

○3年生『重さ』、4年生『面積』

3年生は、水槽に入ったカメの量り方をどうすればよいか自分の考えを発表した。4年生は、長方形をもとに正方形の面積の公式を導き出すやり方について自分の予想や考えを画用紙にまとめた。

○5年生『単位量あたりの大きさ』、6年生『速さ』

5年生は、既習事項をもとに学習課題を把握し、学習問題を解きながらiPadによる「おたすけカード」を利用して平均の求め方を説明した。6年生は線分図から時速・時間・道のりを求める式と答えを導き出す論理的な発表がみられた。

4 研究協議

教材の与え方、子どもの課題把握からまとめまでの学習過程、間接指導時に学習が行き詰まった時の「ヒントカード」、既習事項をファイル化して保存していく「算数のツボカード」について多くの質問や意見が出された。



間接指導の充実には、直接指導時での学習が大切であることや、課題把握から自力解決へむけての見通しの持たせ方についての交流をした。また、子どもの思考を停止させないような「ヒントカード」・「算数のツボカード」・iPadの使用・既習事項の掲示など効果があった。定着の時間の増減の工夫がある。

参加者からの声

【第1分科会 えりも町立えりも岬小学校】

○単式学級でも一番苦勞する5年生の単位量当たりの大きさ、6年生の速さを複式で、しかも人数を感じさせない考え方の交流に驚きました。一人一人の考え方が大切にされる集団学びがあるからこそ、子ども達は一人学びに真剣に取り組むことができるのだと思いました。学び方をしっかり理解しているからこそ、学校でしかできない学びを子どもの先生も楽しんで取り組むことができるのだらうと思いました。心に残る授業でした。

【第2分科会 えりも町立笛舞小学校】

- 解決の方法…自力解決において、ノートを使ってしっかり思考し、更にホワイトボードに発表を意識して簡潔に書き表していた。5年生は、自力解決において線分図も自ら書くことができたので日頃から繰り返して行っていることがわかった。
- 各活動を活かした交流し合う場の工夫…理由や根拠を明確にして説明したり、同異を考えながら聞いたりすることが全ての子どもに共通化されているので、子どもの自己評価が上がっている理由がよく分かった。

【第3分科会 浦河町立野深小学校】

- 学校全体で同じ方向を向き、研究されていると思いました。低学年でも、高学年でも、基本的に同じスタイルというのは、子どもの学びを連続する上で、大きな力になっていると感じました。
- 教室内の掲示物から、今までの学習の流れがよくわかり、丁寧な指導がなされていると感じました。

【第4分科会 新ひだか町立東静内小学校】

○児童ののびのびとした授業風景に感心しました。何よりも子ども達と担任の先生の授業に対する明るさ、楽しさが伝わっていたようです。また、教師がついていない時（一人学び・全体交流）に、どう学習をスムーズに進めるか、改めて複式授業の難しさを感じました。

【第5分科会 平取町立紫雲古津小学校】

- 研究の道筋がとても明確であり、感心させられました。とりわけ「既習事項を使う」という点で担任の配慮がしっかりしておりました。本日の授業までの「積み重ね」が感じられました。
- どこかのクラスだけが行うのではなく、学校全体で取り組むことで児童の「かんがえることば」がしっかり定着している様子が見えました。

【第6分科会 平取町立二風谷小学校】

○5・6年生が、紙に書いてあることだけでなく、その場で必要だと考えたことを付けたしながら発表していたのがとてもよかったです。紹介文・説明文の例という提示が、子ども達が発表を考えている時に活用されていて、これまでの学習が生きていると感じました。

【第7分科会 日高町立里平小学校】

○これまでの研究推進、準備等本当にお疲れ様でした。本校も児童数5名の極少数の学校です。ご苦勞お察しいたします。「ツボカード」「iPad」の取組が素晴らしく、ぜひ本校の研究に還元させていただきたいと思いました。

《次期開催地から》 第63回全道へき地複式教育研究大会十勝大会

◇◆◇日高から十勝へ、皆様のご参加をお待ちしています◇◆◇

第63回全道へき地複式教育研究大会十勝大会実行委員長 小 澤 浩 幸

道へき・複連の第8次長期5か年研究推進計画の最終年次を締めくくべく開催された第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会が、道内各地から多くの方々の参集のもと成功裏に終わられたことに心より敬意を表します。日高大会実行委員会の皆様、各会場校の皆様、本当にありがとうございました。

さて、平成26年度の全道大会は日高山脈を越えて、十勝川が大平原を潤す十勝管内へと開催地を移します。来年10月16日(木)の全体会と分散会を幕

別町、17日(金)の分科会は9町村9会場で行います。本年度の日高大会の成果を受け継ぎ、新たな第9次長計の一步を確実に踏み出せるように着々と準備を進めているところです。

豊かな実りの秋を迎える十勝は農水産物とスイーツの宝庫です。モール温泉で疲れを癒し、大地と海の恵みを堪能していただければ幸いです。「銀の匙」の舞台でもある十勝で皆様にお会いできることを楽しみに、実行委員会一同心よりお待ちしております。

大会スローガン

大空と大地の恵み「十勝野」に生き 新しい時代を切り拓く子らに 豊かな心と確かな学力を

開 催 日

平成26年10月16日(木) 全体会・分散会 / 17日(金) 分科会

分科会	会 場 校 名	研 究 主 題 ～副主題～	分野・課題 教科領域等
1	音更町立 南中音更小学校	ことばの力、どんどん発信！ ～いきいきと表現し伝え合う南中っ子～	学習指導 7 国語科
2	士幌町立 上居辺小学校	自ら学び、いきいきと表現し合う子どもの育成 ～学ぶ意欲を高める手立ての工夫を通して～	学習指導 6・7 算数科
3	上士幌町立 萩ヶ岡小学校	意欲を持って課題に取り組み、自分の考えを伝え共に学び合う子どもの育成 ～算数科における言語活動の充実と授業展開の工夫～	学習指導 6・7 算数科
4	鹿追町立 上幌内小学校	自信をもって考えを伝え合う子どもの育成	学習指導 6・7 体育科・算数科
5	芽室町立 上美生小学校	進んで人とかかわり、思いを伝え合う子どもの育成 ～対話を通して学びを創造する国語科の授業づくり～	学習指導 7 国語科
6	更別村立 上更別小学校	自らの学びを追究し、豊かに表現できる子どもの育成 ～「間接指導の学び」や「自主的な学び」を大切にし、 思いを育む子どもをめざして～	学習指導 6・7 国語科
7	幕別町立 糠内小学校	「こだわり」につなげ、「こだわり」を広げる学びの創造	学習指導 5・6・7 算数科
8	本別町立 仙美里小学校	進んで考え、思いを伝え合う子どもの育成 ～できる喜びを味わわせる算数科の指導の工夫～	学習指導 6・7 算数科
9	池田町立 高島小学校	心豊かにたくましく「生きる力」をはぐくむ食育 ～家庭・地域・学校との連携を通して～	学習指導 8 全領域